OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	Gallia　57号　会員研究活動報告
Author(s)	
Citation	Gallia. 2018, 57, p. 141-149
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/69861
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

会員研究活動報告

（2017 年 1 月 1 日～ 12 月 31 日）

アヴォカ・エリック

論文
- La démocratie poétique de Christian Prigent. Tumultes et mouvements divers à l'assemblée des mots（Bénédicte Gorrillot, Fabrice Thumerel (dir.), *Christian Prigent : trou(v)er sa langue*, Paris, Hermann, pp. 281-296）
- Les hommes d'argent, l'argent dans la société : fortune théâtrale d'un type dramatique et d'une question politique au XVIIIe siècle（*Gallia*, n° 56, 大阪大学フランス語フランス文学会 , 3 月 , pp. 41-50）

口頭発表
- *De l'usage des conflits en démocratie : fureurs et mystères de l'art oratoire pendant la Révolution française*（colloque international *Transitions au pays de la civilité*, organisé par le Département de langue et littérature françaises de l'Université Nationale Centrale de Taiwan, et le groupe *Transitions*（Université Paris-3 Sorbonne-Nouvelle）, Taipei, Taiwan, novembre）

足立　和彦

単著
- 『モーパッサンの修業時代　作家が誕生するとき』（水声社，361p.，10 月）

論文
- モーパッサンと戦争：復讐の意味するもの（『名城大学人文紀要』，52 巻 3 号，第 114 集，pp. 1-16，3 月）

書評
- ピエール・スヴェストル，マルセル・アラン著『ファントマ』，赤塚敬子訳（風濤社）（『図書新聞』，3321 号，10 月 7 日）

安達　孝信

論文
- 『パリの胃袋』のチーズ交響曲をめぐる自然主義のポエジー：バルベーによる批判とユイスマンスの擁護（*Gallia*, n° 56, pp. 51-60, 3 月）

口頭発表
- ゾラ『クロードの告白』における「郊外」から「自然」への道―ゴンクール兄弟『ジェルミニー・ラセルトゥー』書評を通して（日本フランス語フランス文学会秋季大会 , 名古屋大学 , 10 月 28 日）

阿南　婦美代

単著
- 『仏検対策「聴く力」演習』2 刷（駿河台出版社 , 3 月）
- 『私のホームステイ』3 刷（白水社 , 3 月）

安藤 麻貴

口頭発表
- カミュ後期の著作における植物の表象と「再生」のテーマ（第 81 回大阪大学フランス語フランス文学研究会 , 大阪大学 , 10 月 7 日）

・カミュ『最初の人間』創作への行程―植物の表象をめぐって（日本フランス語フランス文学会中国・四国支部大会 , 徳島大学 , 12 月 9 日）

井上　直子

論文
・セザンヌの現代性―メルロ＝ポンティの評論から（『大阪教育大学紀要』第一部門 , 第 65 巻第 2 号 , 2 月）

井元　秀剛

単著
・『中級フランス語―時制の謎を解く』（白水社 , 9 月）

岩根　久

共著
・「フランス語初級文法クラスのプチ活性化―反転授業的活動の導入事例」(『アクティブラーニング型授業としての反転授業［実践編］』森朋子・溝上慎一編 , ナカニシヤ出版 , pp. 127-137, 5 月）

研究資料
・コーパス分析ソフト CasualConc の活用（1）―ロンサールの論説詩とプロテスタント詩人による版ロンサール詩を例として , (『ロンサール研究』, 日本ロンサール学会 , 30 号 , pp. 139-145, 8 月）

口頭発表
・反ロンサールパンフレットの計量的特徴の再検討（統計数理科学研究所共同研究グループ・統計数理研究所言語系共同研究グループ合同発表会「言語研究と統計 2017」, 統計数理研究所 , 3 月 28 日）
・テキスト理解のために計量的手法を―Mac 用フリーソフト CasualConc を用いたラブレーとモンテーニュの語彙の比較を例に（ラブレー・モンテーニュ研究フォーラム , 東京大学 , 6 月 3 日）
・語彙計量的手法を日常のテキスト分析に（2）―頻度の可視化について（日本ロンサール学会 2017 年度大会 ,　同志社びわこリトリートセンター , 8 月 12 日）

上江洲　律子

口頭発表
・マルロー作品における身体性の表象―『侮蔑の時代』(1935) をめぐって（日本フランス語フランス文学会秋季大会 , 名古屋大学 , 10 月 28 日）

植村　実江

論文
・スタール夫人『ルソーに関する書簡』における天才の概念（『待兼山論叢』, 第 51 号文学篇 , pp. 101-116, 大阪大学文学部［編］, 12 月）

口頭発表
・スタール夫人における天才像（大阪大学フランス語フランス文学会第 81 回研究会 , 大阪大学 , 10 月 7 日）

柏木　加代子

翻訳・解説
・ジャンヌ・ベム『フロベール　コンテンポラリーなまなざし』（水声社 , 235p., 5 月 30 日）

辞書項目（辞書）
・*Dictionnaire Flaubert*, Gisèle Séginger, dir., Éditions Honoré Champion, novembre 2017 の 5 項目担当 : «Mme Dambreuse (Mme)», «Dambreuse (comte d'Ambreuse)», «Dupuis (Léon)», «Comique», «Comédie»

エッセイ
・パリの青春 ― シスター・ベアタを偲ぶ（『ゆうばえ』第 4 号 , 鳴滝書房 , pp. 7-9, 12 月 15 日）

その他
・「フロベールとボザール教授ボナ」『日仏文学・美術の交流』（思文閣出版 , 2014 年）が、2017 年 12 月 25 日に、以下のフロベール・サイト（Rouen dans le site Flaubert）で公開。Cf. Bulletin Flaubert, n° 194（12 janvier 2018）にも記載。
KASHIWAGI Kayoko, «Gustave Flaubert et Léon Bonnat : quelques aspects de l'impressionnisme et du japonisme de Flaubert», dans *Les échanges culturels entre le Japon et la France : autour de la collection japonaise d'Emmanuel Tronquois*, Kyoto, Shibunkaku, 2014, pp. 243-261（mise en ligne sur le site Flaubert, 25 décembre 2017）
・フロベール・サイト上の『フロベール書簡』（2017 年 11 月開設）における「1875 年 3 月 15 日付け姪カロリーヌ宛て書簡」の日付けに関して、柏木の見解が注記された。以下の項目 "I – Notice" を参照。
http://flaubert.univ-rouen.fr/jet/public/correspondance/trans.phpcorpus=correspondance&id=12421

柏木　隆雄

単著
・『心の中の松阪』（夕刊三重新聞社 , 4 月 17 日 , 239p.）
・『こう読めば面白い　フランス流日本文学』（大阪大学出版会 , 6 月 12 日 , 340p.）

編著
・『関西バルザック研究会 100 回の歩み』（関西バルザック研究会 , 12 月 15 日 , pp. 3-14. 総頁 90）

エッセイ・その他
・玻璃のグラス（『ゆうばえ』第 2 号 , 鳴滝書房 , 2 月 , pp. 13-14）
・温厚にして明敏な秀才（*GALLIA*, n° 56, 大阪大学フランス語フランス文学会 , 3 月 4 日 , pp. 96-97）
・精悍、緻密な学者魂（*GALLIA*, n° 56, 大阪大学フランス語フランス文学会 , 3 月 4 日 , pp. 106-108）
・2016 年度の大手前大学院（『大手前比較文化学会会報』第 18 号 , 3 月 31 日 , pp. 1-2）
・大手前大学の 6 年間（*AMAMUS OTEMAE*, n° 6, 大手前大学 , 2016 年 5 月 31 日 , p. 1）
・形見のブローチ（『ゆうばえ』第 3 号 , 鳴滝書房 , 7 月 15 日 , pp. 47-49）

・ひょうたんから駒（桂文我，笑福亭生喬，柏木隆雄「三人会」プログラム，7 月 17 日）
・三重同工会の平成 28 年（『赤壁』第 91 号，　三重同工会，　9 月 1 日，pp. 2-3）
・柳の下にもう一匹？（桂文我，柏木隆雄「二人会」プログラム，11 月 9 日）
・「放送大学大阪学友会・同窓会」の新しい門出に（『おおさか』第 31 号，放送大学大阪学友会・同窓会，11 月 12 日，pp. 1-2）
・座談会『神社と花街』寺井天満宮司，高井住吉大社宮司，津江今宮戎神社宮司，　大和屋女将と．司会担当（『やそしま』第 11 号，（公財）関西・大阪 21 世紀協会　上方文化芸能運営委員会，12 月 1 日，pp.1-29）
・「どうこういせ」に寄せて（『どうこういせ』第 32 号，　三重同工会伊勢支部，12 月 10 日，pp. 2-3）
・母の卒寿（『ゆうばえ』第 4 号，鳴滝書房，12 月 15 日，pp.19-21）

口頭発表・講演
・フランス象徴派詩人ヴェルレーヌはどう日本語に移されたか？（三重日仏協会，放送大学三重学習センター共催，三重県総合文化会館，6 月 18 日）
・漂泊の詩人三好達治の詩と人生（「武庫川倶楽部」講演，宝塚ホテル，7 月 12 日）
・フランス文学は色っぽい ？（講演「桂文我・笑福亭生喬・柏木隆雄三人会」，松阪産業振興センター大ホール，7 月 17 日）
・フランス文学は色っぽい？―その 2（「桂文我・柏木隆雄二人会」，　国立文楽劇場小ホール，11 月 9 日）
・バルザックと La Chine（日本フランス語フランス文学会中国・四国支部会特別講演，徳島大学，12 月 9 日）
・バルザック『禁治産』における「中国」―なぜデスパール侯爵はシノローグとされたか？―（関西バルザック研究会，近畿大学会館，12 月 23 日）

川上　紘史

口頭発表
・パスカルにおける意志に基づく認識について（第 6 回関西学生フランス文学研究会，関西学院大学，8 月 31 日）

北村　卓

編著
・『表象と文化 XIV』（大阪大学言語文化研究科「言語文化共同プロジェクト 2016」，78p.，5 月）
・『フランスを読み解く鍵　第 2 巻（改訂版）』（アシェット・ジャポン，83p.，10 月）

共編著
・『実用フランス語技能検定試験 2017 年度版 5 級　仏検公式ガイドブック』（フランス語教育振興協会編，第 1 部，pp. 1-110，4 月）

・『フランスを読み解く鍵　第3巻』（アシェット・ジャポン , 89p., 4月）

論文
・Perspective on Baudelaire's Reception in Japan from the Meiji Era to the Present（*AmeriQuests*, Vol. 13, No 1, University of Vanderbilt, Nashville, pp. 28-33, 3月）
・宝塚歌劇とテロリズム―近年の演目をめぐって（大阪大学言語文化研究科「言語文化共同プロジェクト2016」『表象と文化XIV』, pp. 43-50, 5月）
・ボードレールと日本の文学／文化（『びーぐる　詩の海へ』36号 , pp. 30-34, 7月）
・Baudelaire dans le monde littéraire japonais（*L'Année Baudelaire*, nº 21, Honoré Champion, Paris, pp. 199-206, 12月）

講演
・La France de la Revue Takarazuka（IVe Congrès régional de la Commission Asie-Pacifique, Fédération internationale des professeurs de français, 京都大学 , 9月22日）
・宝塚歌劇のフランス・イメージ戦略―『モン・パリ』『ベルばら』から現代まで　（立命館大阪プロムナードセミナー「大阪・京都文化講座」, 立命館大阪梅田キャンパス , 10月30日）

対談
・ラフカディオ・ハーンとフランス文学（富山大学中島淑恵教授と , 日本フランス語フランス文学会中部支部大会 , 富山大学 , 12月2日）

講義
・文化外交としての宝塚歌劇―海外公演をめぐって（明治大学リレー講義「情報コミュニケーション学―トランスナショナルコミュニケーションにおける文化の伝達」第13回 , 12月18日）

小林　宣之

共著
・中村真一郎に蘇るネルヴァル：演劇の魔（二）（『中村真一郎手帖12』, 水声社 , 2017年4月）
・『日仏アニメーションの文化論』（水声社 , 大手前大学比較文化研究叢書13, 2017年12月）

小山　美沙子

共著
・『Roseau pensant―citationsで学ぶフランス語』（あるむ , 3月）

コラム
・ロザース（*Artes MUNDI*, Vol. 2, 名古屋外国語大学ワールドリベラルアーツセンター , 3月）
・言葉文化―フランス語との出会いを大切に！（*PIAZZA*, Vol. 2, 名古屋外国語大学出版会 , 9月）

坂巻　康司

口頭発表
・都市へのまなざし―ボードレールからマラルメへ（連続シンポジウム『象徴主義とは何か』第一回「象徴主義と＜風景＞―ボードレールからプルーストまで―」, 東北大学 , 9月30日）

・演劇への夢―ヴィリエ・ド・リラダンからマラルメへ（『マラルメ・シンポジウム 2017』, 神戸大学 , 12 月 16 日）

高岡　尚子

書評
・A・コルバン , J-J・クルティーヌ , G・ヴィガレロ監修『男らしさの歴史』Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ　鷲見洋一 , 小倉孝誠 , 今村傑監訳（藤原書店）（『ふらんす』12 月号 , 白水社）

口頭発表
・ジョルジュ・サンドと二月革命―フェミニズムと「その後」を考える（第一回「革命 / 内乱とジェンダー」研究会 , 駒澤大学 , 9 月 17 日）
・「男らしい男」と「女らしい女」の間 ―George Sand の小説 *André* を題材に（日本フランス語フランス文学会 2017 年度秋季大会ワークショップ「19 世紀フランス文学における『男らしさ』の危機」, 名古屋大学 , 10 月 29 日）
・薄暗い、本の咲く谷間から―文学・フランス・ジェンダーをつないで語りあう（奈良女子大学 / 神戸女学院大学共同ジェンダーシンポジウム「女子大学で文学を！？」, 奈良女子大学 , 12 月 1 日）

武田　裕紀

論文
・デカルトにおけるディメンジョン概念―空間概念との関係において（『理想』第 699 号 , 理想社 , pp. 86-98）.
・デカルトによる『二項数の立方根の考案』の伝承について（*Gallia*, nº 56, pp. 31-40）

書評
・シェイピン他『リヴァイアサンと空気ポンプ――ホッブズ、ボイル、実験的生活』吉本監訳／柴田・坂本訳（『科学史研究』第 56 巻第 281 号 4 月号 , 日本科学史学会 , pp. 66-69）
・山上浩嗣『パスカル『パンセ』を楽しむ　名句案内 40 章』（『フランス哲学・思想研究』第 22 号 , 日仏哲学会 , pp. 334-336）

口頭発表
・デカルトにおけるディメンジョン概念―空間概念との関係において―（京都哲学史研究会 , 楽友会館 , 3 月 25 日）

寺本　成彦

論文
・クリストフ・オノレ『美しい人』における歌の機能―登場人物の心理・行為の動因としての歌詞の意味作用―（『ヨーロッパ研究』第 12 号 , 東北大学大学院国際文化研究科（旧）ヨーロッパ文化論講座 , pp. 23-51, 3 月）

講演
・神代辰巳初期映画における「気の強い女」の系譜をめぐって（右岸の羊座シネマテーク一日集中講座 , ラブミー牧場 , 9 月 30 日）

林　千宏

共編著
・『フランス語を読み解く鍵　第 3 巻』（アシェット・ジャポン , 4 月）

春木　仁孝

論文
・直喩的な日本語・隠喩的なフランス語（『時空と認知の言語学』VI,（言語文化共同プロジェクト 2016），大阪大学大学院言語文化研究科 , pp. 31-40, 5 月）

書評
・Achard, M.（2015），*Impersonals and other Agent Defocusing Constructions in French*, Benjamins（『フランス語学研究』第 51 号 , 日本フランス語学会 , pp. 91-93, 6 月）
・出口優木（2016），『連想照応の可能性―フランス語の用例から』朝日出版社（『フランス語学研究』第 51 号 , 日本フランス語学会 , pp. 93-95, 6 月）

口頭発表
・Ça sent bon la mer !「海のいい匂いがする」―ça を主語に取る構文について（大阪大学フランス語フランス文学会研究会 , 大阪大学 , 3 月 4 日）
・直喩的な日本語・隠喩的なフランス語（西南学院大学 , 7 月 29 日）
・ça を主語とする発話の意味（西南学院大学 , 7 月 29 日）

廣田　大地

口頭発表
・フランス詩を用いたフランス語学習 WEB サイト「ぽえふら」の設計と構築（教育システム情報学会 2016 年度第 5 回研究会 , 愛媛大学 , 1 月 7 日）
・フランス語学習 ICT コンテンツの共有のために―フランス語動詞活用表 WEB ページ「フラ動」を例に―（第 15 回 e-Learning 教育学会 , 沖縄大学 , 3 月 18 日）
・ボードレール散文詩における他者という風景（連続シンポジウム「象徴主義とは何か」第 1 回：象徴主義における＜風景＞，東北大学，9 月 30 日）

その他
・ボードレール『悪の華』を読み解く（NHK 文化センター梅田教室 短期講座 , 1 月 13 日 , 2 月 23 日 , 3 月 25 日）

道廣　千世

口頭発表
・ロマンティック・バレエにおける男の美醜とニジンスキー（第 6 回関西学生フランス文学大会 , 関西学院大学，8 月 31 日）

森　康晃

口頭発表
・ピアノラを弾くアルベルチーヌ（関西プルースト研究会，京都大学 , 12 月 16 日）

山上　浩嗣

共著
・『新・フランス語文法（三訂版）』（朝日出版社 , 1 月）

共著・監修
・『2017 年度版 仏検公式ガイドブック 準 1 級』（第 1 部担当 pp. 13-166）（公益財団法人 フランス語教育振興協会（APEF）［発売：駿河台出版社］, 4 月）

共訳
・エレーヌ・ミション「空しさ――聖書とその文学的変奏」（『思想』第 1122 号（2017 年 10 月号）, 岩波書店 , pp. 129-151, 9 月）

翻訳
・ディドロ『サロン』 抄訳（2）（『大阪大学大学院文学研究科紀要』第 57 巻 , pp. 35-96, 3 月）

書評
・フィリップ・セリエ著『聖書入門』支倉崇晴・支倉寿子訳（『ふらんす』6 月号 , 白水社 , p. 70, 5 月）（http://webfrance.hakusuisha.co.jp/posts/94）
・保苅瑞穂著『モンテーニュの書斎―『エセー』を読む』（講談社 , 2017 年）――『エセー』の魅力を、語りかけるような文体で説く（『図書新聞』第 3319 号 , 9 月 9 日）

エッセイ
・連載「寝るまえ 5 分のパスカル『パンセ』入門」（『ふらんす』白水社）（http://webfrance.hakusuisha.co.jp/categories/2/）：
第 1 回「信仰と理性」、2017 年 4 月号、pp. 74-75, 3 月
第 2 回「天使と獣」、2017 年 5 月号、pp. 44-45, 4 月
第 3 回「夢とうつつ」、2017 年 6 月号、pp. 44-45, 5 月
第 4 回「固定点」、2017 年 7 月号、pp. 44-45, 6 月
第 5 回「〈圧政〉と精神の自由」、2017 年 8 月号、pp. 44-45, 7 月
第 6 回「身体と人間の有限性」、2017 年 9 月号、pp. 46-47, 8 月
第 7 回「習慣と直感」、2017 年 10 月号、pp. 46-47, 9 月
第 8 回「狩りと獲物」、2017 年 11 月号、pp. 46-47, 10 月
第 9 回「正義の不在」、2017 年 12 月号、pp. 46-47, 11 月
第 10 回「政治と慈愛」、2018 年 1 月号、pp. 46-47, 12 月

口頭発表
・パスカル『パンセ』入門――「考える葦」から「賭け」へ（空気調和・衛生工学会近畿支部記念講演 , ガーデンシティクラブ大阪（ハービス OSAKA 6 階）, 5 月 19 日）
・パスカル『パンセ』入門――「考える葦」から「賭け」へ（ラスタ教養大学・言葉文化コース , 伊丹ラスタホール（伊丹市立生涯学習センター）, 10 月 16 日）

和田　章男

論文
・Illiers dans la genèse de «Combray» : la photographie et la mémoire（*Proust et Alain-Fournier. La transgression des genres 1913-1914*, Honoré Champion, pp. 27-35, 27 mars）

共編著
・『新・フランス語文法（三訂版）』（朝日出版社，1 月）

口頭発表
・プルーストとワーグナー批評（関西プルースト研究会，　京都大学 , 2017 年 4 月 1 日）

講演
・パリが変わる！ ― パリ大改造と詩人ボードレール ―（リーガクラブ講演会 , リーガロイヤル・ホテル「桐の間」），6 月 14 日）

・ヴェルサイユ宮殿を巡る ― バロックからロココへ ―（エコールドロイヤル「世界遺産―歴史と文化を巡る旅：フランス（1）」, リーガロイヤルホテル「梅の間」, 7 月 12 日）
・ナポレオン神話とモニュメント（エコールドロイヤル「世界遺産―歴史と文化を巡る旅：フランス（2）」, リーガロイヤルホテル「梅の間」, 8 月 2 日）
・モダニズムの詩 ― エッフェル塔とミラボー橋 ―（エコールドロイヤル「世界遺産―歴史と文化を巡る旅：フランス（3）」, リーガロイヤルホテル「梅の間」, 9 月 13 日）